

田町地区にまつわるストーリー

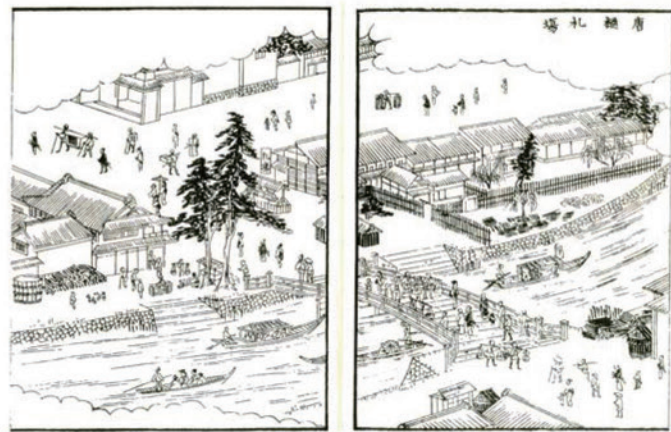
唐樋札場跡

唐樋の札場と御成道

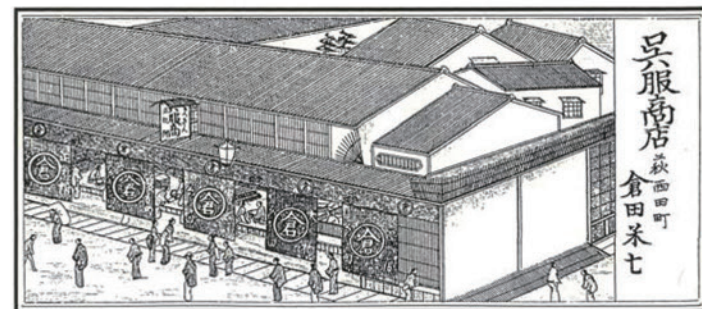
このあたりは、御成道(萩往還)・赤間関街道・石州街道の出発点であり、多くの人々が行きかう交通の要衝でした。そのため、札場を設けて、藩主が決めた法度や掟書などを木の板札に書き、人目をひくように掲げていました。



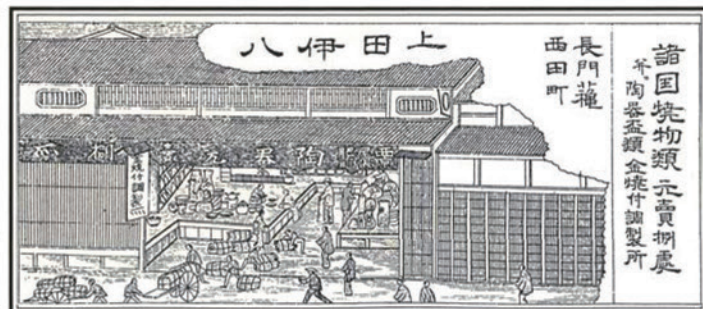
復元された唐樋の札場



八江萩名所図画



A 西田町通り沿いの商店「明治期山口県商工図録」



B 西田町通り沿いの商店「明治期山口県商工図録」

田町を描いた明治時代の古い銅版画では、通りに沿ってひさしの高さがそろった商店が連なっています。あつかう商品は異なっていますが、隣り合う建物は壁一枚で接しています。このように通りに沿って連続する商店街は、実は江戸時代から形作られていました。昔から多くの人や様々な物が集まる所だったのです。田町にアーケードが設けられたのは昭和45年(1970)のことです。実はアーケードにおおわれて見えない裏側には、昔ながらの伝統的な建物が、所々に残っています。

岩崎酒造

幕末の志士も立寄った!?

現在の岩崎酒造の場所は、幕末に活躍した豪商・梅屋七兵衛が、江戸時代の終わりに浜崎から東田町に移り住み、酒造りを営んでいました。

七兵衛は藩の武器を買い入れる役目にもつき、上海から命がけてイギリスの鉄砲1,000丁を持ち帰りました。木戸孝允や伊藤博文など、多くの幕末の志士と交流しました。梅田雲浜が萩を訪れた際にも七兵衛の屋敷に滞在したそうです。



梅屋七兵衛

新堀川

三角州の水はけと交通に寄与した新堀川

新堀川は、洪水時の三角州内の水はけや舟による交通の便を図るため、貞亨4年(1687)に三角州の中央部を東西に横切る形で作られた人工河川です。その当時には、荷物を運ぶための川舟が行き来していました。昭和30年代に道路の建設によって埋め立てられ、約半分の川幅になりました。



萩の方言

「のう、あんた」

親愛の気持ちを込めて相手に語りかける言い方は、時を重ね、「のんた」と短縮された山口県の古い方言になりました。

- ① ああぬく
- ② かばち
- ③ せせろしい
- ④ ちばける
- ⑤ なば
- ⑥ はぶてる
- ⑦ めげる
- ⑧ やねこい

田町商店街には萩の方言パンフレットが設置してあります。また萩の方言が書かれた、垂れ幕が掲げられています。ぜひご覧ください。

<パンフレット設置場所>
きくや、山下時計店、
柏木薬局、おみやげ博物館



萩の方言、意味分かるかな?

お馴染み⑧ おみやげ④ おみやげ②⑨ このき⑤
おみやげ⑦ おみやげ⑥ いのち④ (おみやげ)②③ >おみやげ① とき

施設のご案内

萩市市民活動センター「結」

萩市市民活動センターは、地域で幅広く活動している、NPOやボランティア活動を始めた、市民の自主的で営利を目的としない公益的な市民活動を支援するための拠点施設です。

住所：山口県萩市西田町5番地 電話：0838-24-0161
時間：平日10:00~20:00 土・日・祝日は18:30まで。
情報交流スペースは18:30まで。
休館日：毎週水曜日、12月29日~1月3日



田町ジョイ201

田町商店街の中心に位置し楽しく(JOY)と、ふれあい(201)の愛称で四季を通して、市民の皆様と商店街がイベントやセミナーを協働で開催し、お互いのコミュニケーションの場、思い出作りの場として利用されています。

住所：山口県萩市東田町84番地2 電話：0838-26-2201
時間：9:30~17:00(時間外は要相談)
休館日：日、祝(ただし展示期間中は日祝も展示スペース開放)



萩おみやげ博物館

萩焼、萩ガラス、地酒、萩みそ、醤油、萩焼ぬき蒲鉾、萩のお菓子、手作り品(木製品、水引き製品、手染クッション他)、夏みかんソフトクリームなどを広く販売しています。

住所：山口県萩市東田町13番地 電話：0838-26-5339
時間：10:00~18:30
定休日：年中無休(不定休)



田町eっぷく堂

田町で「いっぷく」できる場所。インターネットができる駄菓子屋として2000年(H12)にオープンしました。名称の「e」はインターネットをイメージした「e」です。スマホの普及でインターネットの利用は終了していますが、今も地元で愛される駄菓子屋として田町商店街が運営しています。駄菓子の他にも、手作り品やシキミ・サカキなども販売しています。

住所：山口県萩市東田町93番地 電話：0838-26-1310
時間：月~金 11:30~17:30、土・日・祝 11:00~17:00
定休日：年末年始(12月30日~1月3日)、その他は不定休



田町季節暦

春

- こどもの日
- 花まつり協賛(4月)
- 萩城下の古き雛たち

夏

- 萩・たまち七夕まつり(8月)
- のんた提灯(西田町・東田町)
- 萩夏まつり(8月2日~3日)
- 田町土曜夜市(7月)

秋

- 佐世天神祭(11月17日)
- 萩ふるさとまつり(もちまき)
- ハロウィンたまち&結まつり(10月)
- 萩田町萩焼まつり(10月)
- 萩竹灯路物語(西田町10月上旬)
- 西田町の秋まつり

冬

- ジョイフルスタンプ会売り出し
- クリスマス装飾(市内各団体)
- 維新の里萩城下町マラソン

R3.3 現在

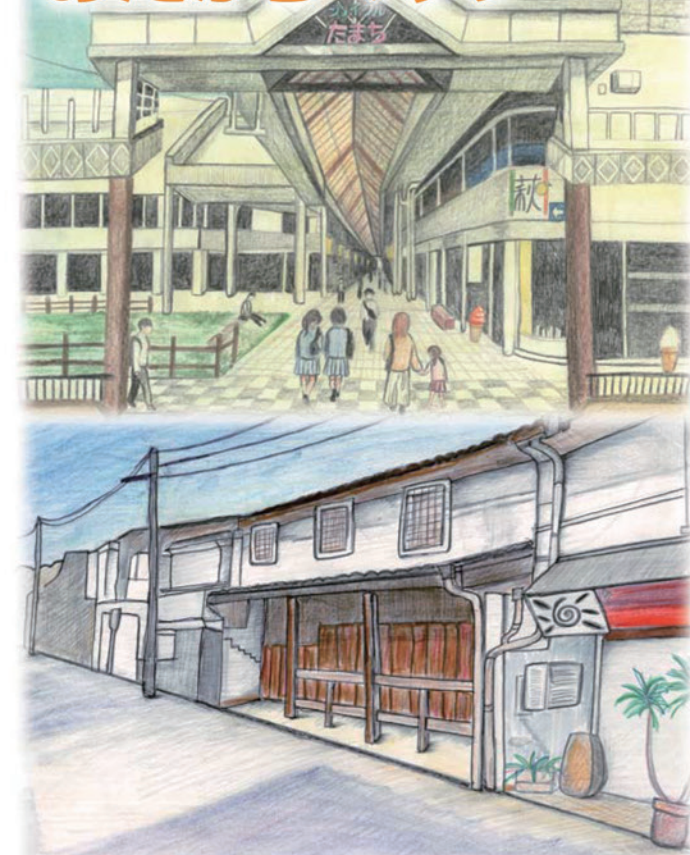
編集発行 萩市田町商店街振興組合連合会
西田町町内会・東田町町内会・萩光塩学院
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)



萩まちあるきマップ

たまち 田町地区 おたからマップ



田町地区(西田町・東田町)は、萩城から続く御成道沿いに形づくられた町人町です。田んぼの中に町を建設したので、田町と呼ばれたということです。御成道は藩主が参勤交代のときに通行した街路で、田町は萩城下の町人町の中心的存在でした。今でも、旧御成道に沿って商店が立ち並び、城下町独特の町割りも残っています。古くからの風情を残す店舗と、新しい店舗との融合がおもしろい街です。お店によっては、古い看板や建物の意匠など見どころも多くあるので、あなただけの「おたから」を探して散策してみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館おたからWEBサイトでチェック!!

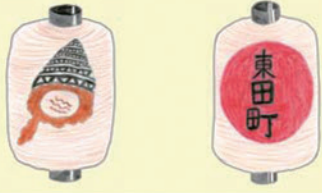
www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/



田町おたからマップ

西田町・東田町の筋名と町印

城下町の建設当時、田畑だったところに、商家が並ぶ町ができたことから名前の由来となりました。



恵美須町

江戸時代の有力商人が建てた大型の町家(18世紀後半～幕末の建築)です。江戸時代には酒屋が営まれ、明治～大正期には商工会議所として、戦後～昭和40年頃には卓球場等として利用されました。

森井家住宅

明治初期の絵図には、呉服店として描かれていて、段差のある屋根と蔵が現在も残っています。

木製の虫籠窓や大きな人見梁が特徴で、明治初期の絵図にも描かれています。

外観のみ

モダンな吊り天井のある陶器屋さん。戦前は、呉服屋として繁盛していたそうです。

人見梁や漆喰塗りの壁がある創業明治十年の葉屋さん。角地に建つため、屋根の飾りなど両方の通りからの見栄えを意識した造りになっています。

津田薬局

古い町家をオーナー自らが改修したアートショップ。奥行の深い町家ならではの中庭があります。

萩藩校明倫館跡(萩・明倫学舎)

マップをだいたい色にした理由

夏みかんは明治の初め、禄を失い生活に困っている萩の士族を救うために、全国で初めて萩で経済栽培されました。夏みかんの実は収穫しなければ、前年の実と今年の実が同じ木になります。このことから「夏代々」と記しました。萩では代々続くという縁起を含んでいます。田町商店街ではだいたい提灯や方言を書いた垂れ幕もだいたい色を使用しています。



だいたいロード?!
4月と8月頃、夕日が田町の筋を真っすぐ入り、道路がだいたい色に染まる光景が素晴らしい。



- 10 唐樋札場跡
- 9 小林製菓
- 8 きものさろん扇屋
- 7 岩崎酒造
- 6 柏木薬局
- 5 田町eつづく堂
- 4 津田薬局
- 3 taz.
- 2 太田洋行
- 1 森井家住宅



御成道・札場コース

御成道とは藩主が参勤交代のときに通った街道のことをいいます。

萩城下にどんぶり型銭湯!?

どんぶり型の風呂があったことから名前の由来となった「頓振町」。藩政時代、銭屋町で銭を製造していた職人たちが、仕事の終わりに汗を流しにやってきたそうです。



昭和8年の染め見本や五つだまのろうはんを見ることが出来ます。

きものさろん扇屋

なつかしい駄菓子がいっぱい!

田町eつづく堂

ネズミの看板が目印。漢方薬実の百年つづく葉屋さん。大正・昭和初期の豪華な薬の看板があります。

柏木薬局

萩光塩学院

萩光塩学院の前身は、明治23年(1890)に設立された「修善講」です。「修善講」は、その後「修善女子校」と改称し、「萩女子学園」に、引き継がれました。1952年にスペインを発祥地として世界各地に広がるベリス・メルセス宣教修道女会が設立母体となって中学・高等学校を併設するミッションスクールとして「萩光塩学院」は、開校されました。のちに、幼稚園・小学校も併設されましたが、現在は、幼稚園と中学校・高校で教育活動が行われています。キリスト教精神に基づいた教育を実践し、開校以来、約半世紀を女子教育に専念してきましたが、2003年から男女共学校として再出発し、活力ある学校づくりを進めています。敷地内には、旧毛利家の萩別邸跡があり、庭は当時の面影を残し、建物の一部は修道院として現在も使われています。



イラストは萩光塩学院美術部が描きました。



田町と山口銀行

山口銀行の前身は百十銀行(第百十国立銀行)です。百十銀行の創立には生活に困窮した士族を夏みかん栽培で救済した小幡高政も加わり、2代目頭取となりました。また藩校明倫館や松下村塾で学び、明治3年には財政研究のため渡米する伊藤博文に従い米国財務省で国立銀行制度や租税紙幣、出納、造幣法などを学んだ木梨信一(平之進)も創立に携わり、明治23年(1890)、3代目頭取となりました。明治時代は現在のジョイ201の場所に百十銀行があり、昭和35年(1960)には、現在地に新築移転しました。萩長門地域の中でも萩支店は歴史ある建物の一つです。



江戸時代の大きな掲示板「高札場」の跡が発掘され、復元されています。高札には幕府や藩からの通達が書いてありました。

手作りの赤飯やおはぎ、大判焼きなど、地元の人々に永く愛される素朴な味のお菓子屋さん。

伝統ある造り酒屋さん。蔵元自ら杜氏をつとめ、丹精込めて「長陽福娘」などの地酒を造っています。



2階のギャラリーには江戸時代の大きな梁が!ここから太田洋行の手前までが軒の町家で、屋根がつながっています。

岩崎酒造

小林製菓

唐樋札場跡

30m

